

兵庫県保険医協会 但馬支部ニュース

No.129

2012年10月5日発行

発 行 兵庫県保険医協会但馬支部
連絡先 〒668-0373 豊岡市但東町久畑126
高橋診療所 TEL/0796-55-0036 FAX/0796-55-0008

支部シリーズ企画『他科を知る会』

日常診療に役立つ症例検討会



(写真上) 講師を務めた
公立日高医療センター
顧問: 芦田一彌先生
(写真右) 当日は多数の
症例が検討された



但馬支部は、7月26日に公立日高医療センターで第3回『他科を知る会』(整形外科領域)を開催、会員や勤務医など12人が参加した。講師の同病院顧問:芦田一彌先生は、関節疾患を中心に多数の症例を検討した。以下、参加者からの感想文を紹介する。

感 想 文

整形外科疾患は、内科医として疑えばすぐに整形外科の先生に紹介してしまい、詳しく勉強することが少なくなっていました。私は家庭医を目指しているのですが、整形外科疾患も患者さんに説明できなくてはいけません。

今回、「他科を知る」シリーズで芦田先生の講義を聞いて、基本的な骨折や関節疾患をおさらいし、整形外科での診断の仕方・最新の治療方法などを教えて頂きました。

急性期は整形外科医にお願いするとして、慢性期では痛みのコントロールについて、整形外科の先生から指導頂くことで、内科医・家庭医にも役割が果たすことができるのではないかと思いました。

今後、レントゲン写真の読み方や撮り方についても教えて頂ければと思います。芦田先生には今後とも教えて頂きたいと思います。よろしくお願ひします。【豊岡市・藤井高雄】

但馬の息吹

野田 昌男 先生(日高町) を谷垣正人副支部長が訪問

この度、協会但馬支部の幹事に就任された野田昌男先生（日高町）を、谷垣正人副支部長が訪問しました。



「最新の設備と知識で地域医療に貢献したい」と語る野田先生

人柄に魅せられ、この世界に入ってしまったのかもしれません。

③但馬地域医療に携わる中で感じること

日高で開業する前には、宮津の与謝の海病院で5年間働いていたことがありましたので、北部独特の気候、風土はだいたい体得していました。ただ開業した年に豊岡病院消化器内科から関連病院だった鳥取大学の先生方が全面撤退され、唖然としました。開業時は、豊岡病院に消化器内科の常勤医が2人しかおらず、われわれ開業医が内視鏡検査などの支援に入らざるを得ない状況でした。その当時を振り返ると、大変でしたが充実した日々を送らせていただきました。

今では豊岡病院消化器内科の常勤医が6人に増え、ドクターヘリのおかげで救急部には10数人の若い先生方もいるので、当時と比べると常勤の先生方の負担は軽減されたようです。今ならふと私も豊岡病院で働きたいなと思ってしまう時もあります。

あと北部の医療に携わっていて感じることは、一人暮らしで高齢な患者さんへの対応で悩んでしまうことがあります。こちらでは、高齢者といえどもお元気で、80歳を超えた患者さんでも大腸カメラを行うことがあります。しかし、弱ってこられた時に、かかりつけ医として診させていただいてとっても、そこに息子さんや娘さんがおられないため、最期はどうしたらいいのか困ることがあります。



谷垣副支部長が訪問

(2面からつづく)

④診療報酬等医療保険制度で改善してほしいこと

「開業医は在宅を重視しない、勤務医はできるだけ入院日数を減らしなさい」という方針は、開業医が多く中小病院も機能している都会ではいいのですが、医者の少ない僻地でこの方針を貫くと、結局患者さんが医療の恩恵を受けられなくなってしまうのではないかと心配してしまいます。

たとえばドクターヘリの登場で救急医療の充実したここ但馬では、高齢者も交通事故では死なないが、ちょっとした肺炎では入院できずに死んでしまうかもしれないのでは、とふと思ってしまうことがあります。



様々な症例を紹介いただいた

⑤診療へのモットー

近年の医療機器或いは消化器病学の進歩はめざましく、例えば消化器癌であっても粘膜内癌であれば内視鏡で根治できる時代になりましたし、難治性腸疾患でありますクロhn病に対しては分子標的治療も行われるようになってきました。またかつては薬でコントロールするしかなかった胃・十二指腸潰瘍やウイルス性肝炎も、ピロリ菌の除菌療法やインターフェロン療法の登場により半数以上完治できる時代になってきました。しかし、医学が進歩してもその恩恵を受けるためには、やはり早期発見、早期治療が大前提となっています。

当院では、消化器内視鏡に関して最新の設備と知識を整え、一人でも多くの方にその時代の恩恵を受けていただきたいと考えております。またその一方で、時代とともに増え続ける生活習慣病をいかに予防しコントロールするか、あるいは高齢化社会を迎え必要になってきた在宅管理型の医療制度にどう対応するかも重要な課題です。専門性をいかしながら、地域に密着しつつ、皆さんに親しまれる医療チームを作りたい、それが私達の願いです。

⑥趣味について

マッケンローやビヨンボルグの時代から中学、高校、大学としていたテニスは趣味というか、特技になっています。また亡き父親がゴルフ場経営に携わっていたこともあり、ゴルフとも長年付き合ってきました。ただこちらへ来て、冬は雪で下がじくじくになり、夏は山の上で紫外線がいっぱいとなかなかできる時期が限られていること、右手のテニスと左手のゴルフが頭の中ではわかっているのですが、その両立がなかなか難しいことが悩みの種になっています。またクラシックやジャズといった音楽鑑賞は好きですし、ロンドンに留学していたころは、よくナショナルギャラリーにいってモネやコンスタブルといった印象派の絵を見にいったものでした。

しかし開業してこの5年間はなかなか時間がとれず、TV番組の『ケンミンショウ』や『今夜はヒストリー』などをビデオにとって休日に見るのが趣味らしき楽しみになっていました。『総合診療医ドクターG』も職業がら録画してみていますが、最近そのドクターGが私の後輩であることを知り、自分ももっと頑張らねばと鼓舞しているところです。今はまた新たな趣味を模索中です。

⑦支部幹事になって

研究会など但馬支部の企画には積極的に参加させていただきたいと思います。

⑧協会に一言

神戸で行われている診療内容向上研究会には、いつも大変興味を持っているのですが、なかなか参加することができません。但馬地域でも例えばウェブを使って会場を作ることはできないでしょうか。

最後に

「最新の設備と知識で地域医療に貢献したい」と語る野田先生。専門性を活かし、地域に密着した医療を実践されている野田先生でした。

兵庫県保険医協会但馬支部 会員懇談会

スタッフのやる気を引き出す コーチング術！

協会但馬支部では、スタッフのコーチング術をテーマに会員懇談会を開催します。

スタッフは入口から患者さんと直接に向き合う、言わば医院の鏡です。そのスタッフを上手に教育し、やる気を引き出すには、どう指導すればいいのでしょうか。「ガミガミ責める」、「批判する」だけでは困ります。比較的小規模な医院・診療所にあっても、院長の理念を実践し、円滑に組織を動かすためには、事務長ないし主要な看護師など組織幹部・教育係が果たすべき役割は大きいものがあります。

そこで、院長と幹部職員を対象に、コーチングのコンセプトと技術について、実践も交えながら嶺山洋子社会保険労務士にうかがいます。

当会を、スムーズな職場環境づくりにお役立てください。特に院長先生、奥様、事務長・教育担当者様のご参加をお待ちしております。

（朝来市・坂本健一記）

日 時 10月13日(土)18時～

場 所 レストラン ラ・リビエール

(兵庫県養父市大塚22-1 Tel 079-665-0801)

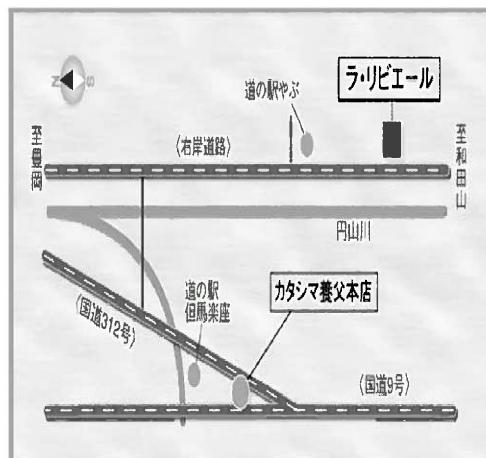
講 師 嶺山 洋子 社労士

トータル人事・労務オフィス、社会保険労務士

産業カウンセラー

参加費 5,000円(お食事代)

定 員 14人



お問い合わせは、協会事務局 TEL 078-393-1805 担当 足立まで

FAX返信 協会但馬支部会員懇談会 078-393-1802

スタッフのやる気を引き出すコーチング術！

<_____>人 参加します

地区/医療機関名/氏名<_____ 市/町 / _____>

TEL<_____> FAX<_____>

※席に限りがございますのでお手数ですが事前のお申込お願いいたします。